創立７４周年
令和6年度2月号

咲かせよう大正の花
つなげよう大正の未来

台東区立大正幼稚園
HP: https://taito.ed.jp/swas/index.php?id=1380011

表現する楽しさの中で

園長　北村　恵

８日に生活発表会を控え、どの学級に行っても何か（動物だったりプリキュアだったり）になった子供たちがダンスをしたりお料理をしたりしてとても賑やかです。

生活発表会のプログラムを受け取った保護者の方は「劇」と聞くとどのような姿を想像していらっしゃるでしょうか。プログラムには、3歳児は「劇遊び」4歳児は「劇ごっこ」5歳児は「劇」と年齢によって違う書き方になっています。その違いを子供たちの姿からお伝えします。

3歳児は12月ごろから繰り返し、ストーリーの中で何かになって遊ぶことを繰り返しています。「おべんとうバス」や「おおきなかぶ」など、先生が読み聞かせしてくれるストーリーの中で伸び伸び表現することを楽しんできました。「てぶくろ」の劇遊びも、日々、誰が何になるのか担任も分かりません。たくさん作った自分のおめんの中から「今日はかえるになる～」「わたしはぱんだ！」と、6人が全員違う動物になって「いれて」「いいよ」と手袋の前でやり取りすることを楽しんでいます。みんなで一緒に同じイメージの世界で過ごすことがとても楽しそうです。

4歳児はもう少し自覚的です。自分のなりたいものも普段遊んでいた遊びの中から選んで忍者やプリキュア、バスの運転手などになっています。葉っぱを入れて欲しい物を言うと出てくる「ぽんたのじどうはんばいき」の絵本が気に入って、自動販売機を作り好きな遊びの中でも繰り返し遊んでいました。先生は、子供たちが何になると伸び伸び表現ができるだろうかと探りながら、日によってストーリーを変え、出てくる登場人物を変えながら劇ごっこを繰り返してきました。子供たちも日々なりたいものになり（時には全部の役になる人もいましたが）楽しんできました。森のステージでも、それぞれが自分の得意なことを生き生きと表現しています。

5歳児は登場人物もストーリーも自分たちで考えました。ストーリーができあがり、なりたい役になって劇の練習を始めた時に見せてもらいました。感想を求められたので「ここのところをもう少し変えると分かりやすくなると思う」と言ったところ、ちょっと不満そうに「僕たちが考えたストーリーなのに！」と言われ驚きました。自分たちのストーリーに対して、思い入れがありプライドももっているのです。結局、私の意見も一部受け入れてもらえたのですが、自分たちで考え作り上げていく、まさに劇だなーと感心しました。その後の練習でも、観客に対して見えやすさ伝わりやすさを大事にして演じる姿が見られています。友達同士で「もう少し大きい声の方がいいんじゃない？」と、指摘し合う姿からもお互いを分かり合い受け入れ合っているからこそできることだなと、年長らしさを感じます。

どの学級も表現することの楽しさを感じて取り組んでいます。取り組みの中で、年齢に応じた言葉の獲得やコミュニケーション力、表現力、自己肯定感、自立心、協同性などの育ちが見られます。ぜひ、発表会当日は各学年の表現の違いにも注目してください。